

第3回 図書館サービス計画検討委員会 (2002年11月20日)

前回までの流れと本日の課題

現在の八尾図書館は老朽化も進み、もともとは図書館専用の建物ではないという構造上の問題もあり、さらに、補強は可能であっても図書館そのものの拡張は難しいという制約もあります。前回、図書館の体制について、「中央図書館」ということを事務局から提案させていただきましたが、八尾市の財政事情をみて、図書館サービス全体を考えるという前提が必要という意見を頂きました。また、サービスを考える中で建物の配置を考えるべきだろうという意見もいただいています。八尾市のこれからの長い期間にわたる図書館サービスのあり方について検討するという中で、図書館サービスそのもの考えるとすればどのような形のことを考えていかなければならないのかということからご議論いただきたいと思います。

図書館側としては現行の八尾・志紀・山本図書館という体制の中で、図書館を利用したくても利用できないという地域的な問題を含めて、配置の考え方もその前提として考えて欲しいということです。

八尾市の図書館の状況

八尾市の登録率は18.57%です。これは、決して高い数字ではありません。また、市の西南部の利用が低く、地域的なばらつきも著しいのが特徴です。貸出密度をみても同様の傾向を示しています。せめて30%の登録率を目指したいと従来から図書館サービスの改善を考えてきたわけですが、現行の体制の中で、この数字を上げることは基本的に不可能という判断をしています。30%の数字を達成するためには、もう1館必要であると考えています。

また、数字から見ると、志紀・山本図書館のある地区に比べ、八尾図書館自体がパワー不足です。このことから、八尾図書館をさらに利用しやすい図書館にするためには、どうすればよいのかということが大きな課題になってきます。

八尾市の図書館の現状と課題

八尾市の図書館の現状と課題を項目別にあげると以下ようになります。

1. 開館日と開館時間 祝日開館と開館時間の延長
2. 児童に対するサービス 乳幼児の読書環境づくり・学校図書館との連携・ボランティアとの連携
3. ヤングアダルトに対するサービス 図書館に引き寄せるための工夫
4. 勤労者に対するサービス 利用を増やすための方途

5. 高齢者に対するサービス 高齢者が本を読みやすい環境づくり
6. 障害者に対するサービス 施設の整備とソフト面での充実
7. AV資料に関するサービス 貸出期間と返却方法
8. 電子資料に関するサービス 新しい課題
9. 予約 インターネットによる予約
10. レファレンスサービス 充実の必要と人材の養成
11. 学校図書館との連携 更なる連携と高校・大学の図書館との連携
12. ボランティアとの連携 活用の方途と育成
13. 専用職員の雇用条件 図書館サービス充実のための処遇の改善

八尾図書館の施設の再生は大変難しいことですが、今の八尾図書館の近くに新しい図書館が出来れば、利用者の吸引力は大分広がる可能性はあります。しかし それで3館ですむかどうかは分かりません。機能的に八尾図書館を中央館として整備し、離れたところからも人が来る魅力あるものにすることによって変わるものがあるが、4つ目を大きく整備するということになった時、八尾図書館をこの形で残すのかということも出てくるでしょう。4館前提で3館もあるかもしれない、更にきめ細かくすれば5館ということもありうるなど、数の問題は流動的に考えたらよいかもかもしれません。また、4つ目の図書館を考えると、中央図書館 的要素を4つ目の図書館に持たせるのは必要なことだと考えられます。

よりよいサービスをめざして

現行の3館の中でサービス向上の努力をしていますが、一定限界にきています。登録率を3割に引き上げることを目指し、図書館サービスの更なる向上を図っていくためには、八尾図書館の充実とともに、さらにもう1館が必要になるうと思われれます。

新しい図書館の役割として次のようなものが、考えられます。

1. 参考調査のための機能 そのための資料及びレファレンスサービスの充実
2. 資料を総合的に管理する機能 選書から除籍まで
3. 電子図書館としての機能。

これらは本来、中央図書館が持つべき機能です。図書館が増えるに従って、各館との連絡調整を強化し、図書館システムの円滑な運営を図るための中枢的な機能を持った図書館が必要となり、その役割も新しい図書館に持たせたいと考えています。